



らめっとM(広島県)

株式会社古本建築設計 様

《審査員評》

昔ならアパートと蔑称されただろう施設プログラムだ。単純明快な平面プランなのだがそこに組み込まれたバッファゾーンにより、独立した住戸が連続するような景観を生み出している。内皮(木質)と外皮(黒)が連続するような見立てが美しい。そうした山並みを思わせるありように、外壁のイルミオが貢献している。

使用商品

COOL イルミオ  
イルミオブラック  
(マイクロガードなし)



【プロジェクトメンバー】

設計者:  
株式会社古本建築設計  
古本竜一様  
奥田秀樹様  
升本徳之様  
施工者:株式会社 豊昇  
担当:田村敬次郎様  
逸見尚章様



株式会社古本建築設計  
代表取締役  
古本 竜一様



株式会社古本建築設計  
副所長  
奥田 秀樹様



株式会社古本建築設計  
一級建築士  
升本 徳之様

企業プロフィール

1992年一級建築士事務所として開設。1993年には株式会社古本建築設計に改組し本格始動。ひとつひとつの建築とじっくり向き合うアトリエ事務所としての建築設計・工事監理の実績を積み、社会的経験値も活かし建築デザインを基軸とした事業ディレクションも行う。



周辺地域をリサーチして導き出された  
入居者の快適さを追求した設計プラン

**ニチハ** このたびは、グランプリ受賞おめでとうございます。集合住宅らめっとMは、オーナー様からどのような要望で作られたのか教えていただけますか。

**奥田** らめっとMは、広島市郊外の新興住宅地にあります。元々は田畑が多い地域でオーナー様も農業に従事されていましたが、この地域に若い世帯を呼び込んで活性化につなげたい、少しでも地域に貢献したいという思いから集合住宅を計画されたそうです。

**升本** この地域は、近年、宅地化が進んだことで、一戸建や集合住宅が多くなっていますが、周囲にあるオーソドックスなデザインの集合住宅とは一線を画したいという思いはお持ちでした。

**ニチハ** 審査員の先生も「集合住宅だがそのよ

**ニチハ** 敷地の建物配置にも、現地を訪れたからこそ活かされた部分があるそうですね。

**奥田** らめっとMは、建物を東側に寄せて西側にスペースをあげ駐車場にしています。

普通を考えれば、敷地いっぱい建物建てるところなのですが、車の交通量が多いし、人の行き交いも多いため、安全面において周囲の方へ配慮が必要だと実感しました。

**升本** らめっとMが面する道路は、スーパーマーケットがあったり、子ども達の通学路になるなど、地域の主要な道路でした。その割に道幅が狭い。らめっとMはちょうど交差点に位置しているのですが、信号機もないので、建物をギリギリに建ててしまつと、見通しが効かず、結構危ないんですね。そこで、あえてセットバックさせ、駐車場という緩衝帯を設けて、入居者の方と周囲の方の安全も考慮して建物を配置したということでした。

**ニチハ** 2層のメゾネットが6室が並ぶ集合住宅になっていますが、計画当初からこのプランだったのでしょうか。

**升本** らめっとMは、建物の前面に通りがあって、開口部の方位が北と南になっています。配置計画としては、縦に並べた方が一番有効に住戸を取れるので、比較的初期から縦に並べようということになりました。低層住居専用地域という用途地域上、高い建物が建てられるところではないという理由もありました。

**奥田** あまりに面積を少なくしても仕方ないですし、最小の面積で最大限豊かな生活ができるようなスペースを割り出して、コストなどのバランスを見ながら決定していきました。

**ニチハ** 一室あたり、間口が2.7メートル、奥行き13メートル。1階がダイナミックなLDK、居室や浴室、洗面などは2階に配置したプランになっています。これは、どついつ意図があるのでしょうか。

うには見えない」と述べられています。従来の集合住宅とは思えないプランとなっていますが、最初からコンセプトをお持ちで進められたのでしょうか。

**奥田** 弊社では設計の根幹に、「住まわれる方の気持ちの側に立つて設計する」というのがあり、奇を衒ったり、デザイン偏重にはならないよう、周辺環境や気候などの要件を踏まえながら決めていきます。らめっとMも、実際に現地を訪れて、自分の目で見て、住環境や空気感を体感した上で設計をスタートしています。

**升本** 周りの環境はもちろんだ、日の入り方とか、風の抜け方とか、建物の方位も気にしています。建物の中にも、季節とか、光の移ろいを感じていただくにはどうしたら良いか。そういうところから導かれる形を表現するというようにしています。

**奥田** 近年、SOHOや在宅ワークが増えています。公私の切り替えへの対応という視点で、1階はパブリックスペースとしてもフレキシブルに利用いただけるようにしています。例えば、ワンフロアでパブリックとプライベートを分けようとしても、なかなか切り離すことが難しいです。そこで、あえて積み上げることにしました。

**升本** 1階はパブリックスペースとして外からのつながりでも考え、2階は完全に階を切り離してプライベートな設備を持ってきています。空間としてもオンとオフの切り替えがしやすいプランになっています。

**ニチハ** 室内の木材を中心にした内装も、通常の集合住宅と線を画していますね。

**奥田** この地域が盆地ということもあり、周囲を見渡すと山の尾根が見えてきます。そういう景観と調和を図るという意味もあり、屋根の形状を勾配にしています。一部、外装材と内装材に木材を使っているということもあり、山や木を意識させたデザインとなっています。屋根の勾配に角度を設けたのは、最近の天候も影響しています。広島だけではなく、毎年のように豪雨災害が起こるようになっていきました。陸屋根だと、水が溜まってしまいがちなので、形状としても水を貯めないように考えました。

**升本** 普通の集合住宅だと陸屋根にして、屋根の先に樋をつけると思うんですが、らめっとMでは勾配屋根の間にある陸屋根の部分が樋の代わりの役割を果たしています。建物の形状として雨水を集め、排水は全て南面で済ませています。陸屋根の下には水回りを集中させて住戸間のバッファゾーンとしています。そうしたスペースを挟むことで隣同士の音が気にならないようにしました。また、袖壁を伸ばして、視線の入りに対応するなど、住戸相互のフレキシを回避させ、デザインと兼ね備えたものになっています。



周囲に連なる山々の屋根との調和を図った屋根形状。



1階の木質感あふれるLDK。カーテンなどで仕切りを設けることで空間を柔らかに分節します。

## イルミオのウマ張りだから実現できた 13メートルのスケールと 木材とガラスが織りなす絶妙のバランス

**ニチハ** 外壁材に、イルミオをご採用いただきました。窯業系サイディングと木材との対比が美しいですが、外壁材の選定では何を重視されていますか？

**奥田** 今回の選択肢として、賃貸住宅という用途から、コストと耐久性を考慮し当初からサイディングを想定していました。室内は自然なものにして、より若年層の生活の安全を守るという方向性ですが、外壁は耐候性や耐火性、耐久性があるような素材を設定するというところでサイディングに至ったように思います。選択肢としては、それを窯業系にするか、金属系にするかというところかもしれません。

**ニチハ** そうした中、イルミオを選んでいただきましたが、決め手はなんだったのでしょうか。

**奥田** ウマ張りができることと色ですね。金属系を含め探していく中で、外観として一線を画しながらも、なるべく奇抜にならないようなもの。落ち着いた雰囲気と周囲と馴染むような色合い、色調を考えていたら黒に落ち着いていきました。黒といったらどんなものがあるかということで探してみると、実際、黒のサイディングってなかなかないんですね。

**ニチハ** ウマ張りができるということは、大きなポイントでしたか。

**升本** 大きなポイントですね。サイディングの張り方にしても、ウマ張りにするなど、ちよつと操作することで、威圧感を抑えることができる。通常のサイディングだと455×3030mmという割になると思っていますけど、そうすると壁面に何本か目地が入ります。なかなか見えないかもしれないですけど、目地が揃って見えてしまうと、非常に圧迫感が出やすい傾向にあります。ウマ張りで緩和できます。ウマ張りにすることで、スケールを感じなくて済む仕上がりになったのではないのでしょうか。

**ニチハ** 13メートルという、なかなかのスケールのものが張りが上がった時は、イメージ通りの仕上がりになりましたか。

**奥田** 想像以上でしたね。すごく大きな面ですから、おおつて思いましたね。13メートルありますから、現地に立つと結構迫力はありますが威圧感はないと思います。

**ニチハ** 側面では圧倒的な存在感があり、正面に向けて徐々に回り込んでいくと、木目とガラスが見える部分が増えていって、前からと横からイメージが全然違う

**奥田** すべて910のモジュールで決めていきます。外壁しかりベニヤとかの割り付けでも910を考慮して、サイズを活かしながらすべてをうまく調整して嵌めていきました。計算された空間だからこそ、室内に入った時に、緊張感といいますか、何かこう整理されているような空間という印象を持っていたかと思うます。

**升本** 設計段階で長さは予め決めていたんですが、取り合いの段階では、サイディングのサイズから逆に追って調整しました。両方の妻とか袖壁も、1820mmをきれいに定尺で使っています。袖壁もウマ張りしているんですけど、910ピッチで先端なども規格の長さでピタリ止めて、端材部分を極力なくしています。とにかく、無駄を少なく、合理的に仕上げた建物ですね。

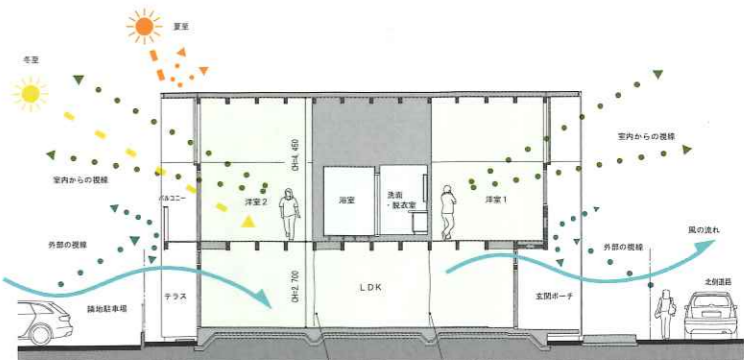
建物になっています。施工では、サイディングや木材など材料の活用にも工夫をされたか伺いました。

**奥田** すべて910のモジュールで決めていきます。外壁しかりベニヤとかの割り付けでも910を考慮して、サイズを活かしながらすべてをうまく調整して嵌めていきました。計算された空間だからこそ、室内に入った時に、緊張感といいますか、何かこう整理されているような空間という印象を持っていたかと思うます。

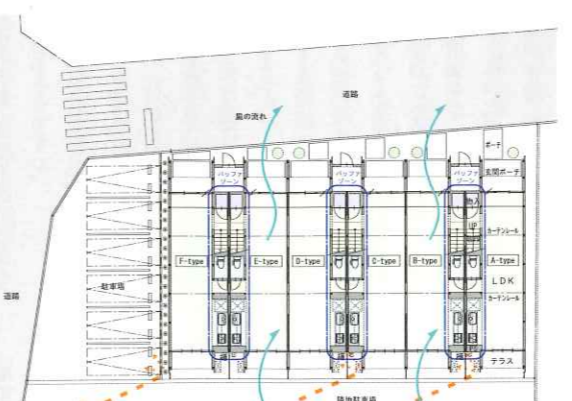
**升本** 個人的には、今回COOLを使ってみて、左右接合部分にシーリングがいらないということが新発見でした。サイディングでは、メンテナンスの時にシーリング目地を打ち替えることが絶対出てくるので、引き渡した後のことも考えたら、メンテナンスもしやすいですよね。そういう製品があるのはいないかと思いましたが、ニチハ 今回のイルミオを使っていたが、サイディングへの意識が変わった点がありましたか。

**升本** 個人的には、今回COOLを使ってみて、左右接合部分にシーリングがいらないということが新発見でした。サイディングでは、メンテナンスの時にシーリング目地を打ち替えることが絶対出てくるので、引き渡した後のことも考えたら、メンテナンスもしやすいですよね。そういう製品があるのはいないかと思いましたが、

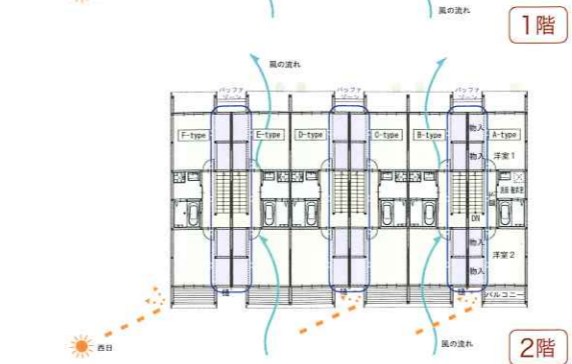
**ニチハ** 募集されてすぐに入居者が決まったそうですが、オーナー様の希望通り、若い方がご入居されたそうですね。



らめつとMの提案資料。空気の抜けと相乗的に採光、空気の対流、日射などを計算した上で設計されています。提供/株式会社古本建築設計



1階



2階



らめつとM付近の航空写真。立地や交通量など、現地調査によって最適なプランを導き出しています。提供/株式会社古本建築設計

方がご入居されたそうですね。

**奥田** そのようですね。ファミリー層で、お子様がいらっしゃる方も多そうですし、夫婦だけで住まわれている方もいらっしゃいます。実際に、在宅ワークやSOHOのご入居者の方もいらっしゃると聞いています。

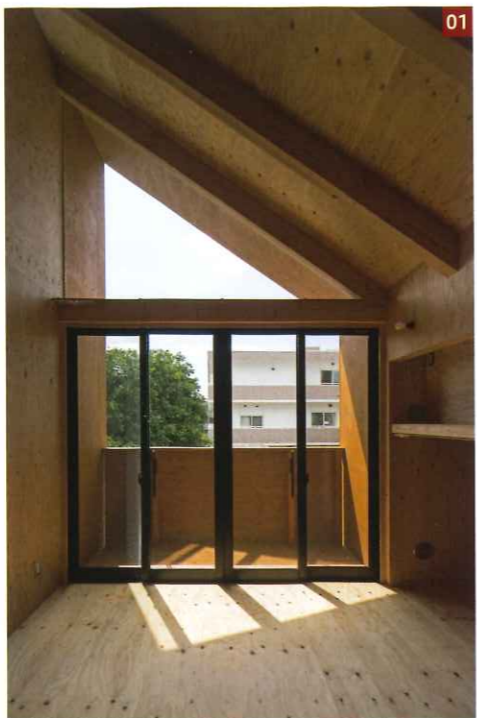
**升本** ご入居者様のご様子を伺った際、土間のポーチに植物を置いたり、目隠しのテントを張って自分のスペースを作られていたり、自由のびのびと生活している印象を持ちました。

**奥田** 地域のメイン通りでもありますし、オーナー様も一念発起してこういう建物建てられて実際に若い方が住まわれている現状には、大変満足いただいているそうです。オーナー様には、すべてをお任せいただいたので、喜んでいただき嬉しく思います。

**ニチハ** ありがとうございます。



「色味と使用量が絶妙で、黒だけど柔らかい印象なので、周囲に尖りすぎない施工例となっています。是非とも応募いただきたい施工例でしたので、グランプリ受賞と同一大変嬉しく思います」と話す広島営業所主任の鈴木(右)。



01 2階は屋根形状そのままに4.4メートルの天井高で個室には開放感が溢れます。

02 イルミオのウマ張りによるらめつとMの側面は、13メートルという圧倒的なスケールでありながら、圧迫感が抑えられ木目と調和した仕上がりになっています。